

令和6年度 松江農林高等学校 学校評価報告書

大項目	小項目	分掌	目標	取組指標	成果指標	自己評価		委員評価	
						評価	総合評価と反省及び次年度への課題等	評価	コメント
A 安全の保障	(1) 人とのかかわり・規範意識・社会性	生徒指導部	ルールやマナーを意識し、自分で行動を選択できる。	携帯電話の管理と使用に関する指導を適宜行う。	指導を受けた生徒の延べ数	C	指導が足りなかった。生徒会に動いてもらいルールの周知と徹底をはかる。また、携帯返却時のルールは変更し、保護者にしっかり伝わる形にしていきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールやマナーの評価が低い。ルールやマナーが今の時代に合っているかは検討が必要。</li> <li>・生徒が挨拶ができていてと感じていることは人とのかかわりの中で重要。</li> <li>・収穫祭に参加したが、生徒がとても楽しんでいる様子が印象に残った。学校行事に生徒が主体的に楽しんで参加していることが素晴らしいと思う。継続して欲しい。</li> <li>・服装や携帯電話のルールは生徒自ら考えるような仕掛けを生徒会と連携しながら考えて欲しい。探究的な学びにつなげて、学外の人と会うときの挨拶や服装などのルールとこの項目を紐づけていくと生きて働く規範意識や社会性が養えるのではないかと。</li> <li>・携帯電話の所有権は親にあるという認識を双方持って欲しい。</li> <li>・スカート丈を一律にできると良いと思う。</li> </ul>
			ルールやマナーを意識し、自分で行動を選択できる。	服装指導を各学期おこない、生徒による挨拶運動を実施する。	学校評価アンケート項目4の肯定的割合	B	服装指導や挨拶運動は行い、昨年度より生徒アンケートの肯定的割合は増えたが、徹底には程遠い。服装のルールの再考も含め、指導の在り方を改善したい。		
			仲間を理解し、互いに成長・協力できる。	学校行事（球技大会）をとおして、クラス連帯感を高める。	学校評価アンケート項目5の肯定的割合	A	球技大会や体育祭などの学校行事に生徒が主体的に関わっている。今後も生徒が自ら動いていけるしかけ、工夫をしていきたい。		
			部活動をとおして、自己の成長を意識し、目標達成のため考え抜くことができる。	部活動紹介や、各部のPR活動を推奨し、入部率を上げる。	部活動への加入率	B	昨年度よりも入部率はアップしたがまだ低い状態。今後もPR活動を推奨し、年度途中にも働きかけて入部率を上げていきたい。		
		進路指導部	生徒が自身の変化のあり方を客観視し、自分の個性や適性を意識できるようにする。	生徒がキャリアパスポート内で、自分自身のあり方について振り返りを行い、担任との面談指導に役立てる。	毎学期1回、計3回実施する	A	各自丁寧に記述し、学期末の面談に役立てることができた。来年度は担任からシートを配信してそれに打ち込んで提出する形にしたい。		
		人権教育部	生徒の実態に即した人権教育、道徳教育を推進する。	講演会やHR活動の企画及び人権日より等の発行を定期的に行う。	人権教育の講演会の回数及び人権日より等の発行・配布の回数	A	人権講演会を2回（10月、2月）開催し、性の多様性・自己肯定、同和問題を扱った。人権日よりは3回（7月、1月、3月）発行し、全校生徒が朝読書の時間に読む機会を設けた。		
		総合学科	系列や科目等の選択に主体的に取り組む生徒の育成	生徒自身が、進路希望等に照らし合わせて系列や授業の選択に主体的に取り組むよう支援する。	生徒が自身の進路選択に合わせて、有効な選択ができたか。（アンケート調査・面談等）	B	「できた」「概ねできた」を合わせると2年生98%に対して1年生90%。「できた」と解答した生徒は2年生68%、1年生80%で、有効な選択がはっきりできた生徒は1年生の方が多い。福祉系列希望が多い状態は続く可能性がある。		
	1 年 部	自他を尊重し合う良好な人間関係を構築する	場に応じた挨拶やふるまいができる	生徒アンケートで、場に応じた挨拶やふるまいができたと回答した割合	A	アンケート結果は「できた」55%、「まあできた」45%で、生徒の自己評価は非常に高かった。今後も気持ちの良い挨拶やふるまいを続けてほしい。			
	2 年 部	社会で通用するマナーを身につける	規則やルールを守る	年度末生徒アンケート「服装やスマートフォンに関する校則を守れたか」への回答率	C	頭髪・制服の着こなしが崩れている。担任副担任以外に教科担当も含めて、関わりある教職員で口うるさく指導を継続したい。総合学科の生徒で「はい」の回答率が低かった。			
	(2) 健康・安全管理	保健部	生徒自らが、心と身体の健康に努め、自己管理できる能力を育成する	個々の体調管理の徹底	朝の健康調査の提出割合	C	生徒からの申告による健康調査は提出率が低かった。次年度は新たな仕組みを検討していきたい。		
		農場部	実験・実習をとおして農業教育を推進する	安全管理をおこない事故のない実験・実習を行う	実験・実習中に起こったケガ等の数	C	軽微と思われるけがも19件と多かったが、熱中症で保健室で休み生徒が見られた。夏季の実習時間等のを見直しや普段からの指導も必要と考えられる。		
		環境土木科	規範意識を高め社会人としてふさわしい道徳観や多様な仲間と協力し学習ができる	実験・実習において、安全項目を確認し機械等を協力して取扱い、破損や紛失をなくし、ケガなどによる保健室利用がない。	授業評価において、安全への配慮について・学びやすい学習環境について肯定的な評価の平均値	A	年間を通じて保健室利用等大きな事故やけがはなかったが、夏季での酷暑の中での実習体制など検討していく必要がある。		
		食品系列	教員間の連携を密に図り、安全・安心な授業・実習が行える。	生徒が事故なく実験・実習を行うとともに異物混入等のない安全な商品の製造を行えるようになる。	ケガ・事故の発生回数	B	実習中に軽い火傷を負うケガがあった。注意の徹底を呼び掛ける。		
	B 学びの保障	(1) 生徒の主体性	教務部	生徒が主体的に学習に取り組む環境を整備する	スタディサブリの効果的な使用体制を構築する	スタディサブリによる長期休業中の課題配信に取り組んだ生徒の割合	C		
保健部			環境を意識し自らの行動に反映させる	生徒保健委員会の活動を通して全体に啓発できる	不適切なごみの分別による指導回数（3度繰り返された場合に指導する）	A	教室からのごみの分別は注意喚起で改善していったが、部活動や実習単位などで出たごみが分別できておらず個別に対応していただいた。		
図書研修部			生徒主体の図書委員会活動を推進する。	図書委員会を中心に、生徒の意見やアイデアを取り入れた図書活用イベントを企画・実施する。	生徒主体の図書イベントの実施回数	A	図書委員会中心の活動として、1学期に図書館スタンプラリー、2学期に宝探しゲームを実施した。（3学期は2月中旬段階で計画途中）今井書店との共催企画やバスでの展示、韓国文化体験講座等の新企画や日々の図書館レイアウト等でも生徒の意見やアイデアが生かされる場面が多々あった。図書委員に限らず、自主的主体的に図書館の諸活動に参画する生徒も多く、生徒の主体的な学びの場を提供できた。		
進路指導部			生徒が複数の方面から進路情報を得ることで、的確な進路選択を行うべく広い視野を持つことができるようにする。	進路ガイダンス、進路学習会、企業ガイダンスなどを計画的に行う。	年度末アンケートで「進路情報を得るのに役立つ」と答えた人の割合	A	特に1・2年合同で行った地元企業ガイダンスにより、2年生に主体的に進路学習に取り組む姿勢を育むことができた。来年度も2学年合同で行いたい。		
農場部			課題研究の高度化や学校農業クラブ活動を活性化させ主体的に学ぶ姿勢を育成する	農業クラブ活動を活性化し、学習活動を行う	県大会における最優秀の数	A	農業鑑定競技では全国大会区分草花で優秀賞、意見発表では、中国大会で最優秀を受賞し、全国大会に参加した生徒も見られた。よりよい結果になるように指導を充実させていきたい。		
生物生産科			農業に関する学習をとおして、何事にも粘り強く取り組む力を身に付ける。（アクション力）	・主体性、選択する力、働きかけ力、実行力の定着と向上を目指し、下記の取り組みを実施する。 ・授業で学んだ知識を「技」として発揮する活動を行う。 ・研究や調査、栽培管理等において自分の考えを試す活動を行う。	アンケートにおいて、「粘り強く取り組む力」について肯定的に評価した生徒の割合により評価する。	A	4コースそれぞれで学んだ知識を活かし、実技を伴う場面において「粘り強く取り組むことができた」と回答する生徒の割合が一定数見られた。今後も座学と実験・実習の連携を図っていきたい。		
環境土木科			課題解決に向けた目標設定ができ、計画的に物事に取り組む、結果に対して適切に考察することができる。	取得すべき資格試験を自ら選定し、合格に向けて意欲的に学習することができるか	各種資格試験に合格した生徒の割合	B	各資格別の合格率にはばらつきがみられる。受検者数は様々であるが試験の時期や学習内容による意欲低下が引き続き課題である。		
総合学科			日々の生活で小さな目標を自主的に設定し、達成する過程を通じて自ら成長できる生徒の育成	日々の学習や将来について、目標を設定するきっかけをつくり、1人ひとりの目標達成を支援する。	小さな目標を自ら設定し、その解決に向けた努力を積み重ねることで少しずつ成長することができたか。（アンケート等）	A	産社や総務の活動に対して多くの先生方の協力のもとで生徒が自分で考えて行動する姿勢を保てたと思う。次年度も生徒の活動を促すよりよい方向を模索していきたい。		
1 年 部			主体的に学習に取り組む態度を育てる	各教科担当と連携を図りながら学習習慣の確立に努め、基礎的な学力の定着を図る	定期テスト1週間前から学習時間平均2時間以上確保できた割合	C	平均学習時間は187分/日で、学習時間をしっかり確保できた生徒とできなかった生徒で大きく差があった。今後は学習時間不足の生徒に対する個別の声掛けが必要だと考える。		
3 年 部			主体的に学習に取り組む態度を育てる	定期試験や課題研究、総合的な探究の時間に主体的に取り組むことができる	年度末アンケートで、学習に関する質問に対して、肯定的に評価した生徒の割合	A	「定期試験前に家庭学習を1日3時間以上取り組むことができた」と答えた生徒の割合は55%にとどまった。学力保障については課題が残る。		

令和6年度 松江農林高等学校 学校評価報告書

大項目	小項目	分掌	目標	取組指標	成果指標	自己評価		委員評価		
						評価	総合評価と反省及び次年度への課題等	評価	コメント	
B	(2) 授業改善	教務部	生徒にとって魅力ある学習活動を展開する学校を目指す。	授業改善を深化させる	生徒による授業アンケート項目「自分は主体的にこの授業に参加していたか」の評価平均が90%以上	A	授業でのICT利用に対する評価は84%、学校評価アンケートでは、興味関心の高まる授業の肯定的割合は95.3%であった。今後も授業改善を進めたい。	B	・授業を録画するなどして、時間があるときに見る方がよいのではないかと。	
		図書研修部	授業を互いに公開・見学し、授業づくりを学び合う。	互見授業（公開1回、見学2回）により、他者の授業づくりの良さを見つけ、自己の授業改善に役立てる。	・公開授業の実施率 ・見学（2回以上）の実施率	C	数値は、2月12日（見学）13日（公開授業）現在。前年度同様、今後年度末に向けて実施増が期待される。ただし、2～3月の公開が多いと本来の趣旨が生かされない。教員各自の「研修」としての授業公開は、公開・見学のハードルを下げ、より気軽な互見を可能にすることなども考えられるか。（例：互見期間を設定し、期間内全ての授業を原則公開、見学回数を増やすが見学時間は短くとも可とする…等）		・周囲と協働して達成できた喜びを味わうために、日々のコミュニケーションの場の提供を一考していただきたい（協働が難しい生徒のために）。	
		生物生産科	農業に関する学習をととして協働的に取り組む態度を身に付ける。（チームワーク力）	・発信力、傾聴力、柔軟性の定着と向上を目指し、下記の取り組みを実施する。 ・対話的な学習場面を効果的に取り入れる。 ・友人と協働して学習する場面を効果的に取り入れる。	アンケートにおいて、「協働的に取り組む態度」について肯定的に評価した生徒の割合により評価する。	A	肯定的な回答が一定数見られた反面、周囲と協働して取り組むことに苦手意識を感じている生徒も一部で見られた。個別のサポート等を行いながら生徒を支援していきたい。			
	(3) ICT活用	教務部	「自分で考え、決める」ことができる生徒を育成する。	生徒が見通しを持って学習に取り組めるように、ICT機器を活用する。	Classroom活用状況アンケートにおいて、「Classroomを活用している」という教員・生徒の割合が90%以上	A	Classroom活用状況は、生徒94%、教員95.2%という結果であった。全生徒が「活用」を持つ中、教科での活用は概ね定着したといえる。	B	・先生方の働き方改革に向けての事務作業の効率化や能率化、また、授業における生徒の理解度アップに積極的にICTを取り入れてほしい。	
		図書研修部	教員のICT活用を推進する。	Google Workspaceまたはschool Taktを活用した実践事例を紹介・操作する研修会を企画・運営する。	Google Workspaceまたはschool Takt活用についての研修の実施回数	B	1学期に出前講座を、3学期にICT活用講座を実施した。他に、ICT支援員来校日に個別の質問時間を予約制で設けた他、新しく質問事項を共有できる場所も用意した。ICT活用に関する教員のニーズの掘り起こしや把握、ICT支援員の活用には課題があるか。2学期より運用を開始した校内ポータル（教員用・生徒用）により利便性向上を図ったことは、学校全体としてのICT活用推進につながったと考えている。		・今年度の松農発表会を通して、日ごろのICTを活用した取り組みがよくなされていると感じた。すべてにおいて年々バージョンアップしていると思う。	
		食品系列	魅力ある授業の展開	ICT機器等を用いて分かりやすい授業を行うことで、生徒の興味・関心を高める	アンケートにおいて、食品系列の授業に対する興味・関心が高まった生徒の割合。	B	ICT機器を使用する頻度は教員や授業によって異なるため、系列内で生徒へ重点的に示したい部分について系列内で共通した示し方（ICT）を検討する必要がある。			
	(4) 探究的な学び・地域連携	魅力化推進室	島根県や松江市の地域振興に根差した探究活動の推進	探究活動における地域連携の促進	松江市、島根県での地域連携をおこなった探究活動の数	A	B科18研究、E科4研究、C科19研究。校外との連携活動が毎年増加している。今後は交流だけではなく、地域の課題を主体的に解決できる仕掛けを行ってほしい。	A	・地域や上級学校との連携した探究活動が積極的に行われている。	
		農場部	課題研究の高度化や学校農業クラブ活動を活性化させ主体的に学ぶ姿勢を育成する	地域・上級学校との連携・協働した研究を実践する	課題研究における研究の数	A	大学や企業、他高校との研究が実施された。今後は、他科との連携も含めて学校内での連携が必要であると考えられる。		・松江農林のここにはしかない学びである。	
		福祉系列	実習及び体験的学習を充実させ、生徒の基礎的な知識・技術の習得・活用する力を身に付ける。	外部講師や施設等と連携した介護技術指導を行う。	生徒によるアンケートにおいて、基礎的な知識・技術の習得・活用をすることができたかという生徒の割合	A	外部講師による介護技術指導や様々な専門職の方から講義をしていただき、生徒の専門的な知識・技術の習得・活用に繋げることができた。		・農林高校の魅力化と探究的な学習がリンクして、学生の主体的な学びを引き出し、地域への還元も見える化されたところが今年度のトピックだと思える。地域や民間企業、行政を巻き込んで、さらにこの前向きな取組を進めていただきたい。	
		地域系列	専門教科を通して、地域の課題や資源について知り、地域の魅力を発信できる。	様々な発表やまとめを通して、課題を明確化し発表し、互いの意見や完成物を高め合う活動ができる。	発表会などを通して、他者の考えや思いを理解し、前向きな考えや意見を持つことができると自己判断する肯定的評価の割合	A	校外学習など、積極的に参加する生徒が増えた。今後、学習内容を発信する機会を増やしたい。		・松江市長に成果報告をし、生徒が主体的に研究に取り組んでいることがわかった。農業に関する課題にも取り組んで欲しい。	
	C	(1) 生徒の主体性	地域系列	校外学習や地域との連携に際し、その場にふさわしい挨拶や服装および態度ができていく。	授業を始め、学校生活全般において、社会人として必要な挨拶やその場にふさわしい服装や態度ができる。	年度末アンケートにおいて、授業や様々な学習活動で、その場にふさわしい服装や態度ができていくという割合	B	挨拶は徐々にできるようになっている。今後は社会人の資質として、その場にふさわしい服装、態度ができるよう継続的に声掛けを行っていく必要がある。	B	・資格取得の意味を理解してもらうことが大事。
			2年部	進路実現にチャレンジする	授業の学習内容を自分の将来に活かす	年度末生徒アンケート「2つ以上の資格取得や検定試験に挑戦したか」への回答率	C	学年の後半になるにつれて進路意識が高まり、3学期に案内のあった検定は受験率が高かった。進路実現のためだけでなく、目標を持った生き方やその努力の証としての魅力を早い時期から伝えるべきである。		・生徒が主体性を持って学生生活を過ごすためには、基本的な生活習慣が土台となると思う。したがって家庭での親の役割は大きい。目標を持った生き方にねらいを定めておられる学校に期待する。
3年部			自分の進路について主体的に考える態度を育てる	進路実現のために主体的に取り組むことができる	年度末アンケートで、進路に関する質問に対して、肯定的に評価した生徒の割合	A	それぞれの進路実現に向けて主体的に行動できた。			
(2) 指導環境・体制の改善		保健部	学年会・進路指導部と連携し適切なキャリア指導に関わる	各学年会に参加し情報交換を密にする	学年会への参加状況	B	ほぼ出席できたが、担当者が不在の時に代理を立てるまではしなかった。保健部内での情報共有も十分にしていきたい。	A	・地元就職率の高い傾向が続いており、地方創生・地域人材確保のためにも、この傾向を維持されたい。	
		進路指導部	自らの進路実現に向けて主体的に取り組むことができるようにする。	就職希望者一斉面接指導や進学希望者個別指導を充実させることによって学校全体で3年生の進路実現を支援する体制をつくる。	就職希望者、進学希望者が全員それぞれの進路を確定したか。	A	多くの教員の協力によって就職と進学における個別指導を充実させることができた。2年生の3学期から学年会を通じて進路指導を行いたい。		・少人数できめ細やかな指導が行われている。	
		魅力化推進室	進路実現につながる各学科・系列の特色を生かした探究活動の推進	探究活動を通して生徒の進路意識を醸成する	年度末反省による探究活動に積極的に参加した教職員の数	A	探究学習へ取り組み姿勢が毎年向上している。しかし積極的に参加しない生徒も見られる。テーマ設定等生徒の身の丈に合った内容を見つけれられるように働きかけが必要である。		・先生方にも農林高校の特色や良さをアピールする探究的な学びを生徒と一緒に楽しんでもらい、遊び心をもって推し進めていただきたい。	
		環境土木科	粘り強く学習に取り組む姿勢や、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付ける。	課題研究や現場見学、専門学習において地元企業や団体とともに授業を展開し、進路選択へ活用する	授業評価において、学習の主体性について・専門科目への関心が高まったか定量的な評価の平均値	A	1年生（1回）、2年生（2回）現場見学を行った。造園コースや3年生出張実習、課題研究などで企業の方でも活動に取り組むことができ、継続して取り組んだことで、卒業生進路先は65%がの学業関連の就職や進学となった。次年度以降も継続したい。		・進路決定状況から、就職、進学とも多岐にわたった選択が可能になっている。	
		食品系列	生徒の適性に即した進路指導を早期から行う。	課題研究や企業見学を通し、地元企業、上級学校との連携を深め、進路選択に役立てる。	食品に関連する企業への就職または関連性のある上級学校への進学率の割合	A	系列生16名のうち13名が食品関連企業・学校への進学であった。		・保健部内での生徒の情報共有は重要だと思う。	
		福祉系列	粘り強く学習に取り組む姿勢や、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付ける。	課題研究や施設実習などにおいて、地域の福祉施設や関連団体との連携を密にし、進路選択へ活用する。	生徒によるアンケートにおいて、主体的に学習に取り組む態度や福祉への関心が高まったと答える生徒の割合	A	施設実習や外部講師の講義だけでなく、中学生への介護の出前授業や福祉のイベントに参加したことなどを通して、福祉への関心を高めることができた。		・個別指導の充実には先生方の協力体制とコミュニケーションがよくなされている結果だと思えるので継続してほしい。	
D		その他	総務部	松農発表会や学校説明会、オープンスクール、HPなどを通して、本校の活動を効果的に紹介する。	・各種行事やHPを用いてPR活動に努める。	志願倍率が1倍を超えることを目標とする。	A	昨年度同様、松江市・安来市・雲南市の中学校のうち、要望のあった25校全てに対して高校説明会を行うなど、生徒募集を積極的に行った。	A	・魅力化の取組の成果が、中学生の進路選択に現れているように感じられ、今後も説明会等を通じ積極的に発信されたい。
			総務部	PTA活動の充実を図り、保護者主体の取組になるよう工夫する。	・総会、収穫祭模擬店での保護者の参加を促す。	店参加の保護者のべ数が、全保護者数の30%以上となることを目標とする。	B	PTA総会の出席者は70名で、昨年と同数であった。また、収穫祭模擬店の参加者は48名で、5名減となった。今後もPTA行事への参加を呼びかけていきたい。		・地域の必要な高校になっていると感じる
			総務部	職員会議の資料のペーパーレス化を推進する。	・電子データで資料を提示し、職員会議に個人用パソコンを持参してもらい会議を行う。	電子データを活用した職員会議の割合	A	初めの2回の職員会議は紙で実施したが、その他はペーパーレスで実施できた。		・本校の取組を小・中学校へさらに広げ、志願者増を目指していただきたい。